



きらきら Eye Land
JA庄内みどり

安全・安心をお届けいたします

グリーンプロジェクト情報 第12号

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課

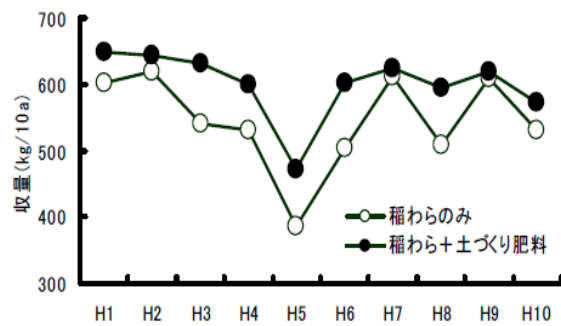
来年の米づくりは今秋から！ 天候に負けないための土づくりを！！

今年の刈取りは平年並みに開始され、作業は降雨により少し遅れたものの、終了に近づいています。登熟は好天に恵まれ、全般的に良好に推移し、心配された乳白粒・胴割れの発生は少ないようです。引き続き丁寧な乾燥・調製を行うよう心掛けましょう。

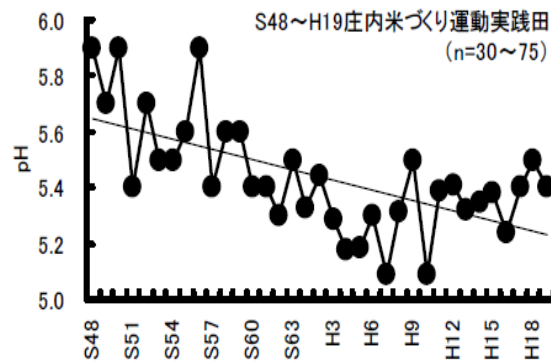
本年産米の収穫後は、平成29年産米の取り組み開始を意味しています。異常気象にも対応できるように、土づくりを実施しましょう。

ここ数年、土壌pHの低下が年々進行していることから、目標数値まで高める対策が急務となります。酸性化土壌の改善（地力の回復・向上）を図るため、土壌pH年間0.1アップを目安に土壌のメンテナンスを図りましょう。

管内の現況：土壌pH5.3（平均） → 目標値：土壌pH5.5～6.0



土づくり肥料の施用により収量が安定する⁽¹⁾



水田土壌のpHは低下し続けている（米づくり運動調べ）

技、其の一 29年産へ向けて作業開始です！

気象変動に左右されず、環境に十分配慮し、おいしくて安全・安心なお米として広く消費者から認知いただくためには、土づくりを基本とした米づくりが大切です。

土づくり資材を散布することにより、水稻の健全化を保ち出穂後の登熟向上を図り、地力の低下による生育後半の活力を維持する効果があります。良質米の継続的な安定生産と産地の生き残りのためには、必須の技術です。継続して実践しましょう。

また、春先に乾きの悪い圃場は秋のうちからの弾丸暗渠等の排水対策が有効です。

近年、田ワキの発生が原因で初期生育の不良な圃場が散見されます。田ワキを抑えるには、稲わらの分解を促進させるために、収穫後早めの秋すき込みと稲わら分解促進資材の使用が効果的です。特につや姫は初期生育確保のために施用しましょう。

○稲わら腐熟促進資材（秋散布）…ワキの防止に効果的です。

資材名	アグリ革命		ワラ分解キング
	細粒	アクア	
使用量	2kg/10a	100ml/10a	10kg/10a
使用時期	<ul style="list-style-type: none"> 原則、秋施用 春施用の場合は田植え1カ月前までに散布 		<ul style="list-style-type: none"> 原則、秋施用 春施用の場合は代かき45日前までに散布後、速やかにすき込む。
備考	<ul style="list-style-type: none"> すき込みなしでもOK すき込みを行うとより効果的 		<ul style="list-style-type: none"> 低温時でも稲わら分解に効果発揮

※降雨後など、稲わらが湿った状態に散布するとより効果的です。

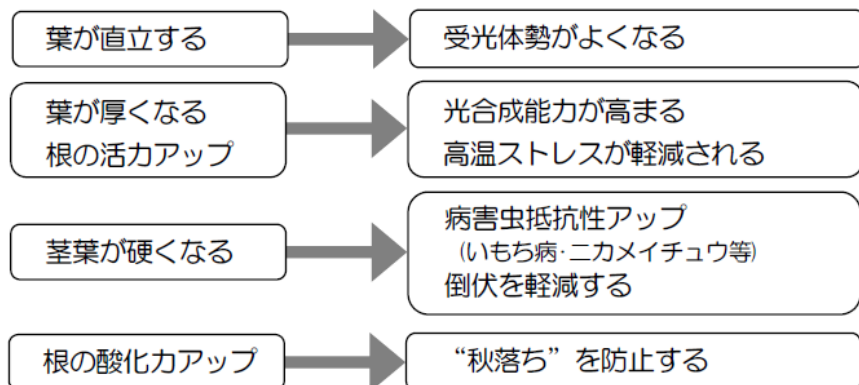
○土づくり資材…酸度矯正とケイ酸の補充

資材名	農力アップ	天の恵み14号
使用量	60kg/10a	100kg/10a
使用時期	<ul style="list-style-type: none"> 原則、秋施用 春施用の場合は耕起前までに散布 	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ケイ酸・苦土・微量元素を含有した新総合土づくり肥料 	<ul style="list-style-type: none"> ようりんとケイカルが同時散布できる省力銘柄。混合割合は、ようりん1(20%)：ケイカル4(80%)

(裏面へ続く)

《ケイ酸の効果》

水稻は、窒素の10倍ものケイ酸を吸収する、ケイ酸要求量をきわめて高い植物でケイ酸の施用により、次のような効果が得られ、気象変動に対する緩衝効果が高まります。



効果的なケイ酸施用【基本施用（収穫後(秋)または融雪後～基肥施用時(春)）】

- ・ケイ酸以外の副成分の効果（酸性土の改善、腐熟促進など）や、散布の作業性から、秋施用がベスト。
- ・ケイ酸成分で 30kg/10a を目標に、少しずつでも、隔年でも、施用することが大切。
- ・稲刈り後、できるだけ早く施用するのが腐熟促進のために望ましいが、秋に施用できなければ春施用を。

技、其の二 大豆の刈取り適期を逃さない！

大豆の「リュウホウ」は刈取り適期となりました。除草作業の徹底を図り、収穫に支障がないように準備しましょう。

成熟期後20日を過ぎると、しわ粒が発生しやすくなり、急激に品質が低下します。

適期刈取りを徹底し、高品質な大豆を収穫できるよう努めましょう。

大豆収穫の目安（コンバイン収穫）

品 種	成熟期	刈取り適期
リュウホウ	10/ 2頃	10/ 9～22
エンレイ	10/10頃	10/17～31
里のほほえみ	10/19頃	10/26～11/9



図 刈取り適期の目安

★ コンバイン収穫のポイント

コンバイン収穫の適期は、子実水分が17%以下で、おおよそ成熟期後7日以降です。

雑草や青立株は汚損粒発生の原因となるので、刈取り前に必ず抜き取りましょう！！

収穫した大豆については、施設への搬入（出荷）までの期間、変質等に十分注意し、一時保管をお願い致します。

柿の収穫が始まります！


①今年、平年より4日程早く前年より6日程遅い、10月11日頃から集荷が始まります。出荷基準に基づき作業を行いましょう。また、昨年発生が多かった果頂部黒変果（バツェン果）が、今年も見られる園地があります。庭先での選別を徹底しましょう。



②各地で、台風・ゲリラ豪雨等、異常気象の傾向にあります。天気予報に十分注意しましょう。

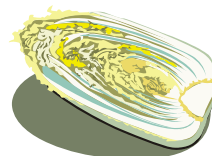
近年は少ないですが雹害対策の為に防雹ネットを早めに準備しましょう。

③脱渋中の汚損果防止の為、収穫時の取り扱いには十分注意しましょう。

 {降雨時に収穫した場合は、果実に付着した水分（結露）が汚損果の原因となります。十分乾燥させてから出荷しましょう}

④施肥については、土壌条件、樹勢に応じて加減しましょう

通常の施肥の目安が、3年枝先端の新梢が、「平核無」で20cm～35cm、「刀根早生」で30cm～40cmの場合は、窒素成分で12kg/10aですが、着果量等も考慮しながら施肥量を決定しましょう。



『娃娃菜』の管理について

昨年同様、日照に恵まれた夏も終わり、だいぶ秋めいた気候になってきました。現在生育中の秋冬娃娃菜は、当初、残暑と干ばつの影響で定植後の活着が思う様にいかなかった様でしたが、現在は、適度な降雨もあり順調に生育しております。しかし、イナゴ・コナガの食害（葉に穴あく等）は、昨年より多いので、計画的な防除をお願いします。また、毎年発生が多いカルシウム欠乏による縁腐れにも注意しながら、湿害による生育停滞が無い様、圃場の排水対策を徹底しましょう